

NASDAQ100トリプル (マルチアイ搭載)

運用報告書 (全体版) 第2期

(決算日 2023年3月27日)

(作成対象期間 2022年3月26日~2023年3月27日)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/海外/株式	
信託期間	2021年3月26日~2026年3月25日	
運用方針	信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	イ. 米国の株式市場の値動きを享受する債券 (円建) ロ. 米国の債券 ハ. わが国の債券 ニ. ダイワ・マネーデポジット・マザーファンドの受益証券 ホ. 米国の株価指数先物取引
	ダイワ・マネーデポジット・マザーファンド	円建ての債券
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	ベビーファンドの株式実質組入上限比率	
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、配当等収益の中から基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、配当等収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、連動債券への投資を通じて、信託財産の成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先 (コールセンター)
TEL 0120-106212
(営業日の9:00~17:00)
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			NASDAQ100指数 (配当込み、米ドルベース)		公社債 組入比率	債券先 物率 比	純資 産額
	(分配落)	税 分 配 金	期 騰 落 率	(参考指数)	期 騰 落 率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
1期末(2022年3月25日)	11,338	0	13.4	11,634	16.3	99.5	—	2,959
2期末(2023年3月27日)	10,616	0	△ 6.4	10,152	△12.7	99.9	—	2,364

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) NASDAQ100指数 (配当込み、米ドルベース) は、NASDAQ100指数 (配当込み、米ドルベース) の原データをもとに、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注5) 組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 公社債組入比率は新株予約権付社債券 (転換社債券) を除きます。

(注7) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。

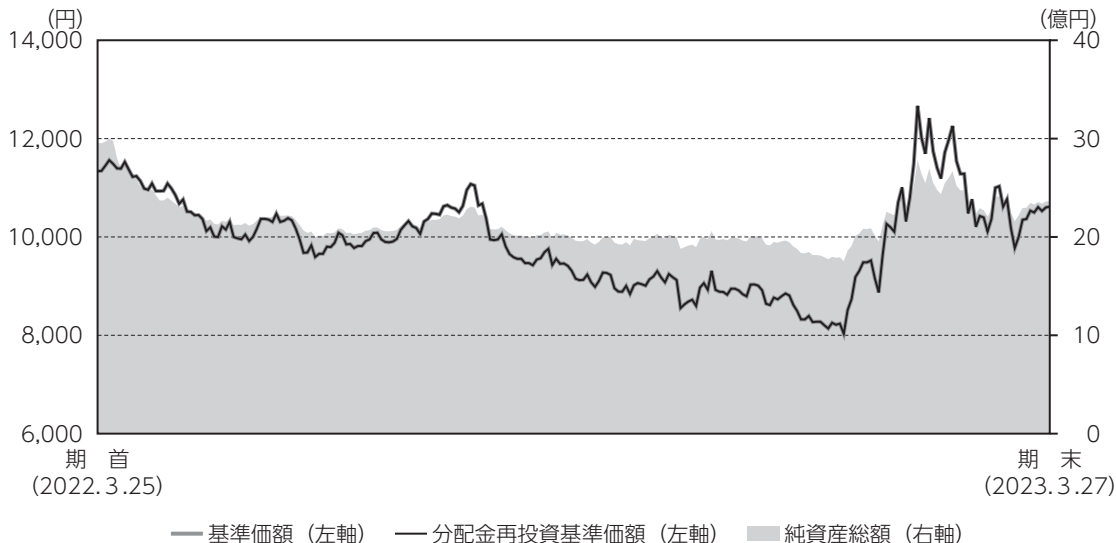
※参考指数を「NASDAQ100指数 (米ドルベース)」から「NASDAQ100指数 (配当込み、米ドルベース)」に変更しました。

当ファンドは、Nasdaq, Inc.またはその関連会社 (以下、Nasdaq, Inc.およびその関連会社を「株式会社」と総称します。) によって、支援、推奨、販売または販売促進されるものではありません。株式会社は、ファンドの合法性もしくは適合性について、または当ファンドに関する記述および開示の正確性もしくは妥当性について認定するものではありません。株式会社は、当ファンドの保有者または公衆一般のいかなる者に対しても、一般的な証券投資または特に当ファンドへの投資についての妥当性や、NASDAQ-100 Indexの一般的な株式市況への追従可能性について、明示的か黙示的かを問わず、何らの表明もしくは保証も行ないません。株式会社と大和アセットマネジメント株式会社との関係は、Nasdaq®およびNASDAQ-100 Indexの登録商標ならびに株式会社の一定の商号について使用を許諾すること、ならびに、大和アセットマネジメント株式会社または当ファンドとは無関係に、ナスダックが決定、構築および算出を行なうNASDAQ-100 Indexの使用を許諾することに限られます。ナスダックは、NASDAQ-100 Indexの決定、構築および計算に関し、大和アセットマネジメント株式会社または当ファンドの保有者の要望を考慮する義務を負いません。株式会社は、当ファンドの発行に関してその時期、価格もしくはその数量の決定について、または当ファンドを換金する際の算式の決定もしくは計算についての責任を負っておらず、また関与をしていません。株式会社は、NASDAQ-100 Indexとそれに含まれるデータの正確性および中断されない算出を保証しません。株式会社は、NASDAQ-100 Indexまたはそれに含まれるデータの利用により、大和アセットマネジメント株式会社、当ファンドの保有者またはその他のいかなる者もしくは組織に生じた結果についても、明示的か黙示的かを問わず、何らの保証も行ないません。株式会社は、明示的か黙示的かを問わず、何らの保証も行わず、かつNASDAQ-100 Index®またはそれに含まれるデータの利用に関する、特定の目的または利用のための市場商品性または適合性については、いかなる保証についても明示的に否認します。上記に限らず、いかなる場合においても、株式会社は、いかなる逸失利益または特別、付随的、懲罰的、間接的もしくは派生的損害や損失について、たとえもし当該損害等の可能性につき通知されていたとしても、何らの責任も負いません。



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

*分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

*分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります(分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります)。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■基準価額・騰落率

期首：11,338円

期末：10,616円(分配金0円)

騰落率：△6.4%(分配金込み)

■基準価額の主な変動要因

連動債券(米国の株式市場の値動きを享受する債券(円建))を通じて、原則として、NASDAQ100指数先物取引の組入比率が信託財産の純資産総額の300%程度となるように買い建てつつ、市場局面がリスク回避局面と判定される場合、基準価額の下落リスクを抑制するために、NASDAQ100指数先物取引の組入比率を調整した結果、米国株式市況が下落したことにより、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

NASDAQ100トリプル (マルチアイ搭載)

年 月 日	基 準 価 額		N A S D A Q 100 指 数 (配当込み、米ドルベース)		公 社 債 率 組 入 比	債 券 先 物 率 比
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期首) 2022年 3月25日	円 11,338	% -	11,634	% -	% 99.5	% -
3月末	11,486	1.3	11,876	2.1	94.5	-
4月末	10,509	△ 7.3	10,249	△11.9	99.7	-
5月末	10,367	△ 8.6	10,008	△14.0	99.9	-
6月末	9,857	△13.1	9,206	△20.9	99.8	-
7月末	10,365	△ 8.6	10,047	△13.6	99.6	-
8月末	9,589	△15.4	9,762	△16.1	100.0	-
9月末	9,078	△19.9	8,836	△24.1	99.8	-
10月末	9,246	△18.5	9,142	△21.4	99.8	-
11月末	8,793	△22.4	9,120	△21.6	99.8	-
12月末	8,255	△27.2	8,688	△25.3	99.8	-
2023年 1月末	10,317	△ 9.0	9,454	△18.7	99.6	-
2月末	10,425	△ 8.1	9,581	△17.6	99.1	-
(期末) 2023年 3月27日	10,616	△ 6.4	10,152	△12.7	99.9	-

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2022.3.26~2023.3.27)

■米国株式市況

米国株式市況は2022年10月まで下落し、その後は若干上昇しました。

米国株式市況は、当作成期首から2022年6月半ばにかけて、インフレ率の予想以上の上昇を受けてFRB（米国連邦準備制度理事会）が利上げを加速するとの思惑が強まったことなどから、下落しました。6月半ばにFRBが利上げ幅の拡大を決定した後は悪材料出尽くし観測から上昇に転じ、またインフレ率がピークアウトするとの期待感などもあり、8月中旬にかけて上昇が続きしました。その後は、予想以上のインフレ率の上昇や英国の財政悪化懸念などで欧米の金利が上昇したこと、企業業績の見通しの下方修正が相次いだことなどが嫌気され、10月半ばにかけて下落しました。11月末にかけては、英国市場の混乱が収束して欧米の金利上昇が一服したことや、米国のインフレ率が予想を下回ったことなどが好感されて上昇しましたが、年末にかけては、米国の景況感や企業業績の悪化が懸念されて下落しました。2023年に入ると、賃金上昇率の伸びが鈍化しFRBの利上げペースの減速が期待されたことなどから再び上昇に転じましたが、2月以降は予想を上回る経済指標の発表が相次ぎ金利が上昇したことや、欧米金融機関の信用不安などから、当作成期末にかけて下落基調で推移しました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

当ファンドの運用方針に基づき、主として連動債券に投資し、原則として、NASDAQ100指数先物取引の組入比率が信託財産の純資産総額の300%程度となるように買い建てつつ、市場局面がリスク回避局面と判定される場合、基準価額の下落リスクを抑制するために、NASDAQ100指数先物取引の組入比率を調整します。

なお、ファンドの規模、流動性等によっては、米国の債券、わが国の債券および「ダイワ・マネーデポジット・マザーファンド」の受益証券に投資するとともに、米国の株価指数先物取引を買い建てまたは売り建てることにより、運用を行う場合があります。

■ダイワ・マネーデポジット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

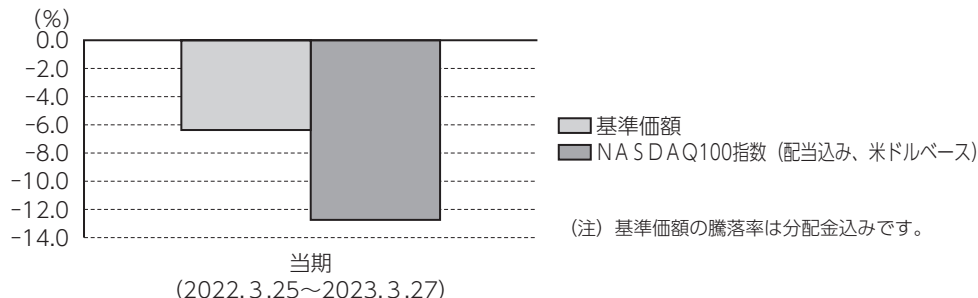
(2022.3.26~2023.3.27)

■当ファンド

連動債券に投資を行い、原則として、NASDAQ100指数先物取引の組入比率が信託財産の純資産総額の300%程度となるように買い建てつつ、市場局面がリスク回避局面と判定される場合、基準価額の下落リスクを抑制するために、NASDAQ100指数先物取引の組入比率を調整しました。当作成期中のNASDAQ100指数先物取引の組入比率は、60%程度から300%程度の間で推移させました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

当作成期は、経費控除後の配当等収益が計上できなかったため、収益分配を見送らせていただきました。
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■分配原資の内訳 (1万口当たり)

項目	当 期	
	2022年3月26日 ～2023年3月27日	
当期分配金 (税込み) (円)	—	
対基準価額比率 (%)	—	
当期の収益 (円)	—	
当期の収益以外 (円)	—	
翌期繰越分配対象額 (円)	3,360	

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。



今後の運用方針

■当ファンド

当ファンドの運用方針に基づき、主として連動債券に投資し、原則として、NASDAQ100指数先物取引の組入比率が信託財産の純資産総額の300%程度となるように買い建てつつ、市場局面がリスク回避局面と判定される場合、基準価額の下落リスクを抑制するために、NASDAQ100指数先物取引の組入比率を調整します。

なお、ファンドの規模、流動性等によっては、米国の債券、わが国の債券および「ダイワ・マネーデポジット・マザーファンド」の受益証券に投資するとともに、米国の株価指数先物取引を買い建てまたは売り建てることにより、運用を行う場合があります。

■ダイワ・マネーデポジット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2022.3.26~2023.3.27)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	134円	1.355%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は9,919円です。
(投 信 会 社)	(66)	(0.664)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(66)	(0.664)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(3)	(0.028)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	－	－	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	－	－	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	3	0.032	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(2)	(0.024)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(1)	(0.008)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	138	1.387	

(注1) 当作成期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

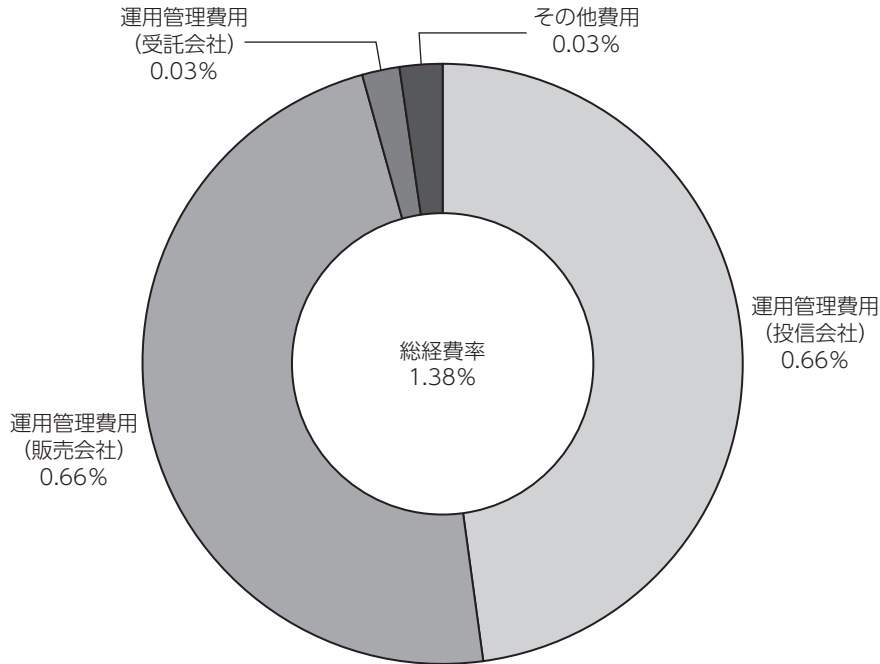
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.38%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料、有価証券取引税および投資対象とする連動債券にかかる費用等を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

*当ファンドでは、上記のほか投資対象とする連動債券において次の費用がかかります。

純資産総額に対して年率0.06% (税込) 程度、その他各種費用等

■売買および取引の状況

公 社 債

(2022年3月26日から2023年3月27日まで)

		買 付 額	売 付 額
国		千円	千円
内	社債券	417,530	877,993 (-)

(注1) 金額は受渡し代金 (経過利子分は含まれておりません)。
(注2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。
(注3) 社債券には新株予約権付社債券 (転換社債券) は含まれておりません。
(注4) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2022年3月26日から2023年3月27日まで)

当		期	
買	付	売	付
銘	柄	銘	柄
	金額		金額
Vault Investments PLC 2026/3/25 (ユーロ円債)	千円 417,530	Vault Investments PLC 2026/3/25 (ユーロ円債)	千円 877,993

(注1) 金額は受渡し代金 (経過利子分は含まれておりません)。
(注2) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) 国内 (邦貨建) 公社債 (種類別)

区 分	当		期					
	額面金額	評 価 額	組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率	5年以上	2年以上	2年未満
普通社債券	千円 2,160,000	千円 2,362,327	% 99.9	% -	% -	% -	% 99.9	% -

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。
(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。
(注3) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2) 国内 (邦貨建) 公社債 (銘柄別)

区 分	銘 柄	当 期		未	
		年利率	額面金額	評 価 額	償還年月日
普通社債券	Vault Investments PLC	% -	千円 2,160,000	千円 2,362,327	2026/03/25

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2023年3月27日現在

項 目	当 期	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 2,362,327	% 98.4
コール・ローン等、その他	39,467	1.6
投資信託財産総額	2,401,795	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2023年3月27日現在

項 目	当 期	未
(A) 資産	2,401,795,116円	
コール・ローン等	39,467,916	
公社債(評価額)	2,362,327,200	
(B) 負債	37,444,068	
未払金	7,608,940	
未払解約金	15,672,113	
未払信託報酬	14,076,471	
その他未払費用	86,544	
(C) 純資産総額(A - B)	2,364,351,048	
元本	2,227,077,422	
次期繰越損益金	137,273,626	
(D) 受益権総口数	2,227,077,422口	
1万口当り基準価額(C / D)	10,616円	

* 期首における元本額は2,610,567,544円、当作成期間中における追加設定元本額は1,032,794,640円、同解約元本額は1,416,284,762円です。
* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,616円です。

■損益の状況

当期 自2022年3月26日 至2023年3月27日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	2,264,176円
その他収益金	2,284,715
支払利息	△ 20,539
(B) 有価証券売買損益	△ 26,738,278
売買益	140,768,850
売買損	△167,507,128
(C) 信託報酬等	△ 29,853,069
(D) 当期損益金(A + B + C)	△ 54,327,171
(E) 前期繰越損益金	△610,950,956
(F) 追加信託差損益金	802,551,753
(配当等相当額)	(△ 104,484)
(売買損益相当額)	(802,656,237)
(G) 合計(D + E + F)	137,273,626
次期繰越損益金(G)	137,273,626
追加信託差損益金	802,551,753
(配当等相当額)	(△ 104,484)
(売買損益相当額)	(802,656,237)
繰越損益金	△665,278,127

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程 (総額)」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程 (総額)

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	748,329,066
(d) 分配準備積立金	0
(e) 当期分配対象額(a + b + c + d)	748,329,066
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額(e - f)	748,329,066
(h) 受益権総口数	2,227,077,422口

ダイワ・マネーデポジット・マザーファンド

運用報告書 第2期 (決算日 2022年12月9日)

(作成対象期間 2021年12月10日～2022年12月9日)

ダイワ・マネーデポジット・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

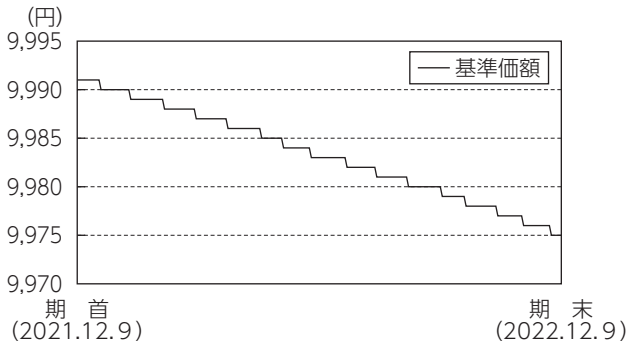
運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行いません。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10%以下

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 率
	騰 落 率	組 入 比	
(期首)2021年12月9日	円	%	%
12月末	9,990	△0.0	—
2022年1月1日	9,989	△0.0	—
2月末	9,988	△0.0	—
3月末	9,987	△0.0	—
4月末	9,985	△0.1	—
5月末	9,984	△0.1	—
6月末	9,983	△0.1	—
7月末	9,981	△0.1	—
8月末	9,980	△0.1	—
9月末	9,978	△0.1	—
10月末	9,977	△0.1	—
11月末	9,976	△0.2	—
(期末)2022年12月9日	9,975	△0.2	—

(注1) 騰落率は期首比。
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
 (注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：9,991円 期末：9,975円 騰落率：△0.2%

【基準価額の主な変動要因】

コール・ローン等の利回りがマイナス圏で推移したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市場

当作成期を通じて、日銀は長短金利操作付き量的・質的金融緩和を維持しました。この金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移し

ました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

◆ポートフォリオについて

流動性や資産の安全性に配慮し、コール・ローン等による運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用	—
合 計	—

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。
 (注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

当作成期中における売買および取引はありません。

■主要な売買銘柄

当作成期中における主要な売買銘柄はありません。

■組入資産明細表

当作成期末における有価証券等の組み入れはありません。

■投資信託財産の構成

2022年12月9日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 1,087	% 100.0
投資信託財産総額	1,087	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2022年12月9日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	1,087,768円
コール・ローン等	1,087,768
(B) 負債	-
(C) 純資産総額(A - B)	1,087,768
元本	1,090,486
次期繰越損益金	△ 2,718
(D) 受益権総口数	1,090,486口
1万口当り基準価額(C/D)	9,975円

* 期首における元本額は1,095,501円、当作成期間中における追加設定元本額は100,101円、同解約元本額は105,116円です。

* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：
 マネーデポジット資金拠出用ファンド（適格機関投資家専用） 989,384円
 ダイワ/パリュウ・パートナーズ・チャイナ・カーボン・ニュートラル・フォーカス 101,102円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,975円です。

* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は2,718円です。

■損益の状況

当期 自2021年12月10日 至2022年12月9日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△1,788円
受取利息	8
支払利息	△1,796
(B) 当期損益金(A)	△1,788
(C) 前期繰越損益金	△ 956
(D) 解約差損益金	127
(E) 追加信託差損益金	△ 101
(F) 合計(B + C + D + E)	△2,718
次期繰越損益金(F)	△2,718

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。